

市民が選ぶ文化財 「京都会館」

所在地	京都市左京区岡崎最勝寺町
竣工年	昭和35年(1960年)
構造規模	鉄筋コンクリート造地上4階地下1階
設計者	前川國男
所有者	京都市
顕彰者	京都会館を大切にする会 岡崎公園と疎水を考える会 京都会館再整備をじっくり考える会 左京まちづくり連絡会

選考理由

京都でも屈指のビューポイント、岡崎公園の疎水端に、京都市民であれば誰でも知っている、一度は訪れたことがある、また平安神宮への道すがら、モダンでありながら和風を感じさせるその建物を記憶している観光客の方々も多いのではないかと、そういう心に残る建物が京都会館です。戦後もようやく落ち着いた1960年、市民の集える施設として、また日本で唯一公共団体が運営する京都市交響楽団の本拠地として建設されました。設計の前川國男氏はル・コルビュジェに師事された、日本のモダニズム建築の第一人者です。敷地の特性をよく考え、ここ京都では建物の高さをできるだけ低く抑えることに成功しています。外観はモダニズムスタイルらしいコンクリート打放しの柱・梁と低く抑えた軒の高さに、和を感じさせる深いひさしが影を落としています。中庭に立てば、視線は建物を透かして外へと導かれ、大きな建物の威圧感を感じさせません。内部は多目的な用途を盛り込み、多用な使い方のできる仕掛けを持ったおもちゃ箱のような楽しさに満ちています。

京都市はこの京都会館を改築するにあたり、第一ホール部分を高くして周囲との調和を無視し、オペラ公演のできるホールを謳って市民の使い勝手を無視する改築案を強行しようとしています。今回顕彰させていただく上記の方々はこのような状況を憂慮し、私たちと共に京都市にもう一度改築案を考え直すよう活動されており、その一助として私たち京都の近代建築を考える会にできることを行いたいと考えました。

このように、街の風景として市民のみならず観光客にも記憶される貴重な近代建築「京都会館」は、私たち近代建築を愛する市民が「市民が選ぶ文化財」として顕彰するにふさわしい建築であり、ここに選定致します。

2012年1月29日 京都の近代建築を考える会

「市民が選ぶ文化財」選定要項

(趣旨)

近年京都においても多くの近代建築物がその姿を消し、建築文化やまちの景観が失われている状況がある。権威に依拠せず、市民が自発的に考え、様々な見極める力を育て合いながら、自ら意思表示しようとするものである。

(意義及び目的)

この要領は、京都市内にあり続けてきた近代建築物で、市民生活において重要であると考えられるものについて、これらを明らかにし、市民が認識を高め合う中で、身近に建築文化を享受できる豊かな生活環境の維持継続に寄与することを目的とする。

(定義)

この要領においてそれぞれ各号に定めるところによる。

- (1) 「市民文化財」 市民的価値を有する建造物で市民が選ぶ文化財
- (2) 「市民」 職業等をこえて日々生活をおくる人たち
- (3) 「近代建築物」 明治期以降に建てられた建物

(選定)

「京都の近代建築を考える会」が京都市内に存する近代建築物のうち、市民的価値を有するものを市民文化財に指定する。

(選定の基準)

市民的価値を有するものとは次の(1)から(3)までのいずれにも該当するものをいう。

- (1) 「愛着を覚える」
- (2) 「敬意を表する」
- (3) 「建築力が迫ってくる」

(所有者等との関連)

選定をしようとするときは、あらかじめ、所有者等の同意を得る。

(公共文化財等との関連)

文化財保護法及び京都府・市文化財保護条例の規定により文化財に指定されたものを除く。

(標識の贈呈)

『会』が交付する標識を所有者等へ贈呈する。

(選考委員会の設置)

『会』に所属する会員において委員を構成する。

「市民が選ぶ文化財」選定一覧

- 第一回（2004年5月選定） 旧・家邊徳時計店
- 第二回（2005年6月選定） 高野第3住宅集会所
- 第三回（2006年月選定） セカンドハウス西洞院店
- 第四回（2007年5月選定） flowing KARASUMA（旧山口銀行京都支店）
- 第五回（2008年6月選定） 壽ビルディング
- 第六回（2009年5月選定） 日本聖公会 京都復活教会
- 第七回（2010年5月選定） バザール・カフェ
- 第八回（2011年6月選定） 先斗町歌舞練場



近代建築保存活動がきっかけで会が発足
京都府庁:保存→重要文化財
〈よかった〉

京都府立図書館:表面保存
〈惜しい〉
壊してしまったら再現できない！！

第一勧銀:レプリカ
〈残念〉



一連の活動に対してご褒美を頂く

どうしたら保存できるか？

所有者の考えは？

お話を聞こう！！



アンケート

ヒアリング

『京都の近代建築35のお話』
発行



第1回市民が選ぶ文化財:
旧・家邊徳時計店



第2回市民が選ぶ文化財:
高野第3住宅集会所



第3回市民が選ぶ文化財:
セカンドハウス西洞院店

つづく

- 年1回の総会
- 年3~4回のウォッチング
- 年4回程度のニュース発行
- 勉強会
- 市民が選ぶ文化財選定
- 保存要望 etc.



同志社フレンドピースハウスを見学した

京都の近代建築を考えたのは三十九日、第二十九回近代建築見学会開催。会員ら約10名が参加するなか、同志社フレンドピースハウス旧称「ハワイ寮」を訪問し、その歴史をたどった。

この施設は、国の登録文化財で、木造地上2階建て三六坪の本格的なコロニアル形式の建物。明治二十年代に建設された。

同志社フレンドピースハウスは、たゞ伝承されているが、詳細は不明。当時は宣教師館として建てられた。ハワイの「フレンドピース財団」が購入して同志社に寄贈された。「ハワイ寮」として学生寮として長年使用されていたが、一九九七年に改修され、「フレンドピースハウス」と名称を変更、集会所として利用されている。

建物は、建設当時の姿を、ほぼ残した形となっており、施設を見学した。ある会員は、「この規模の建物で、内部にわたるまで、今まで保存されている」と驚きの声をあげた。また、他の会員は、「元の姿を残した形で改修する姿勢」に賞賛を贈った。施設を一時閉鎖して見学した後は、参加者は、同志社ゆかりの新島塾など近辺の近代建築を見学している。

第29回近代建築見学会を開催
フレンドピースを探访